



神奈川土木疑獄雪冤會

二月二十三日午後五時から上野精養軒に於て、所謂神奈川疑獄事件として世人の耳目を聳動せしめた田邊良忠氏等の無罪判決に對する雪冤會が開催された。

本事件は神奈川縣川崎市に端を發し、漸次横濱市及び神奈川縣土木部に波及し、延びては他地方に迄も累を及ぼした不祥事件で、何れも其土木主腦部を不當なる檢擧の下に失ひ、實に一世を震駭せしめた大事件であつたが、三年數ヶ月に亙る審理の結果は遂に二月七日無罪の判決を受け 110 餘名の人々が青天白日の身となつたのである。苦節三年正義は遂に最後の勝利を博したのであるが、此一流の代表的技術家が一方的の調査のみで直に檢擧され、無實の罪に問はるゝ幾百日間の無念と殘念とは想像に餘あるものと思はれる。然

も檢察當局の無禮至極なる迫害と脅壓とにより局外者の想像も及ばざる苦痛に對しては、神も佛も無きものか、遂に天を怨み人を呪ふに至り、前途暗澹の裡に遂に憤死した人あり、亦獄死した人さへあつたのである。此の境地は筆や口では到底表現する事の出来ないもので日本男子として此上もない屈辱悲憤の極であつたと思ふ。然も此屈辱に耐へ悲憤を抑へて、遂に能く信念を通して今日の青天白日を迎へたのである。此意義深き雪冤會に列するもの約三百名に達し、土木技術界の先輩や名士を網羅し、前内相の後藤文夫氏や貴族院議員有吉忠一氏、八田嘉明氏、平沼亮三氏其他貴衆兩院議員など官民各方面の同情者が、何れも熱誠に満ちた同情を以て參會した。

(寫眞は當夜の會場、157頁参照)